

(始良郡栗野町木場花ノ木)

位置と環境

栗野町は県の北部に位置する。遺跡は町の中心部から牧園町へ至る南東へ約2 km隔てた、栗野山麓から南西に延びた標高約250mの丘陵台地端部にあたる。丘陵端部の地形はかなりの起伏がみられ、近くには国の天然記念物「ノハナショウブ自生南限地」が所在する沼地の窪地も見られる。現在の県立栗野工業高校敷地内に所在する。

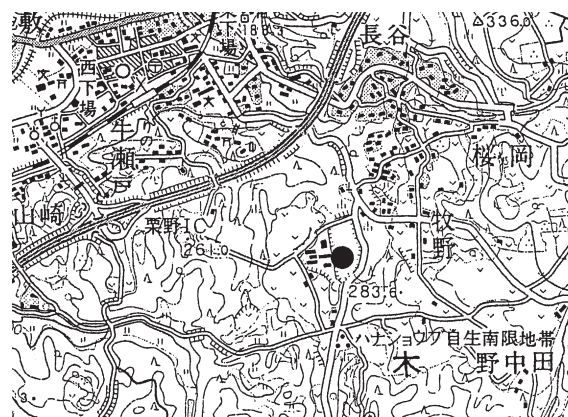
調査の経緯

調査は県立栗野工業高校移転建設工事に伴って昭和48年に分布調査、翌昭和49年3月から8月にかけて鹿児島県教育委員会が発掘調査を実施した。

調査対象面積は約9 haである。調査地は西から南へ緩やかに傾斜した丘陵地と谷水田を隔てた丘陵の縁辺部にあたる。地形に沿って計7地点を設定して調査した。本遺跡は縄文早期のV・VI・VII地点を主体とする。

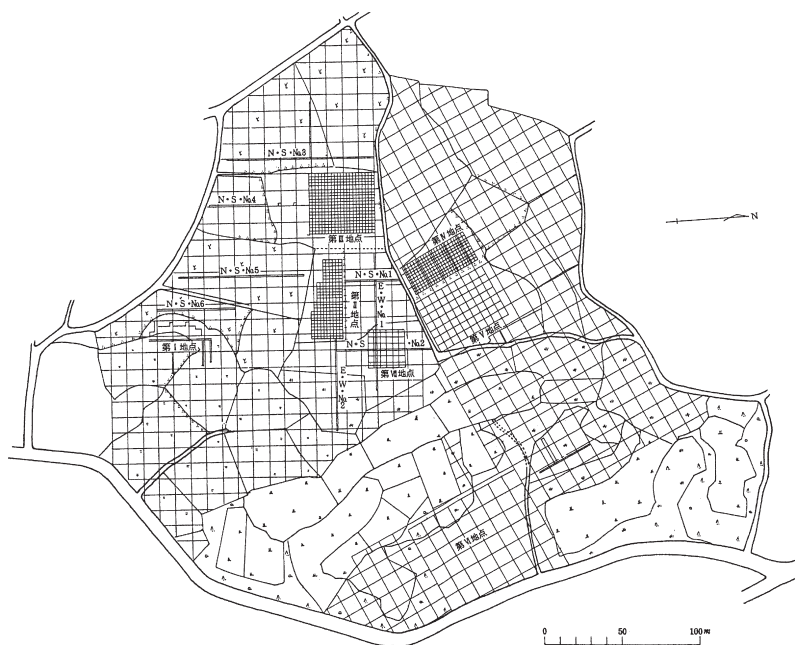
遺構と遺物

第I地点は成川式土器や土師器、須恵器、軽石加工品、第II地点は山形押型文土器、第III地点は縄文後期の岩崎下層式土器、第IV地点は条痕文土器、押



第1図 花ノ木遺跡の位置

型文土器、塞ノ神式土器などが出土し、第III地点の遺構としては、集石が発見され、1号は径約95cmの規模で、中心部には平置きした約30数cmの扁平石を7枚の自然石を周囲に配置し集めたものである。その他ピットが検出された。遺物には縄文早期の平椀式土器、塞ノ神式土器を主体とし、石鏃が出土した。第VI地点は集石が10基、貯蔵穴1基（径約160cm前後の楕円形で深さ約60cm、炭火堅果（木実）の植物遺体を検出）と長楕円形の土坑4基が発見された。遺物には前平式、吉田式、石坂式、押形文土器（楕円・山形）、塞ノ神式A・B土器、貝殻条痕文土器、石鏃（黒曜石やたんぱく石等を素材に細石鏃・鋸齒鏃等）、磨石、凹石などが出土した。第VII地点は土



第2図 調査地点

坑5基（円形と方形）が発見された。その中で3基の円形土坑は径約90cmの楕円形を呈し、深さは約40cm前後である。土坑中から深浦式土器の破片がそれぞれ出土し、これらは同一個体を意図的に分割して埋めたものである。その他、出土遺物としては細隆起突帯文を有する轟式系土器、塞ノ神式土器、平椀式土器、石鏃、石斧等が出土した。

特徴

集石遺構は当時としては本県で初めての発見例で、遺構の名称についても集石名を登用した最初の遺跡

である。また縄文時代早期の貯蔵穴も初現である。轟式系土器が早期の遺物包含層から出土したことは今日の土器編年における課題となっている。

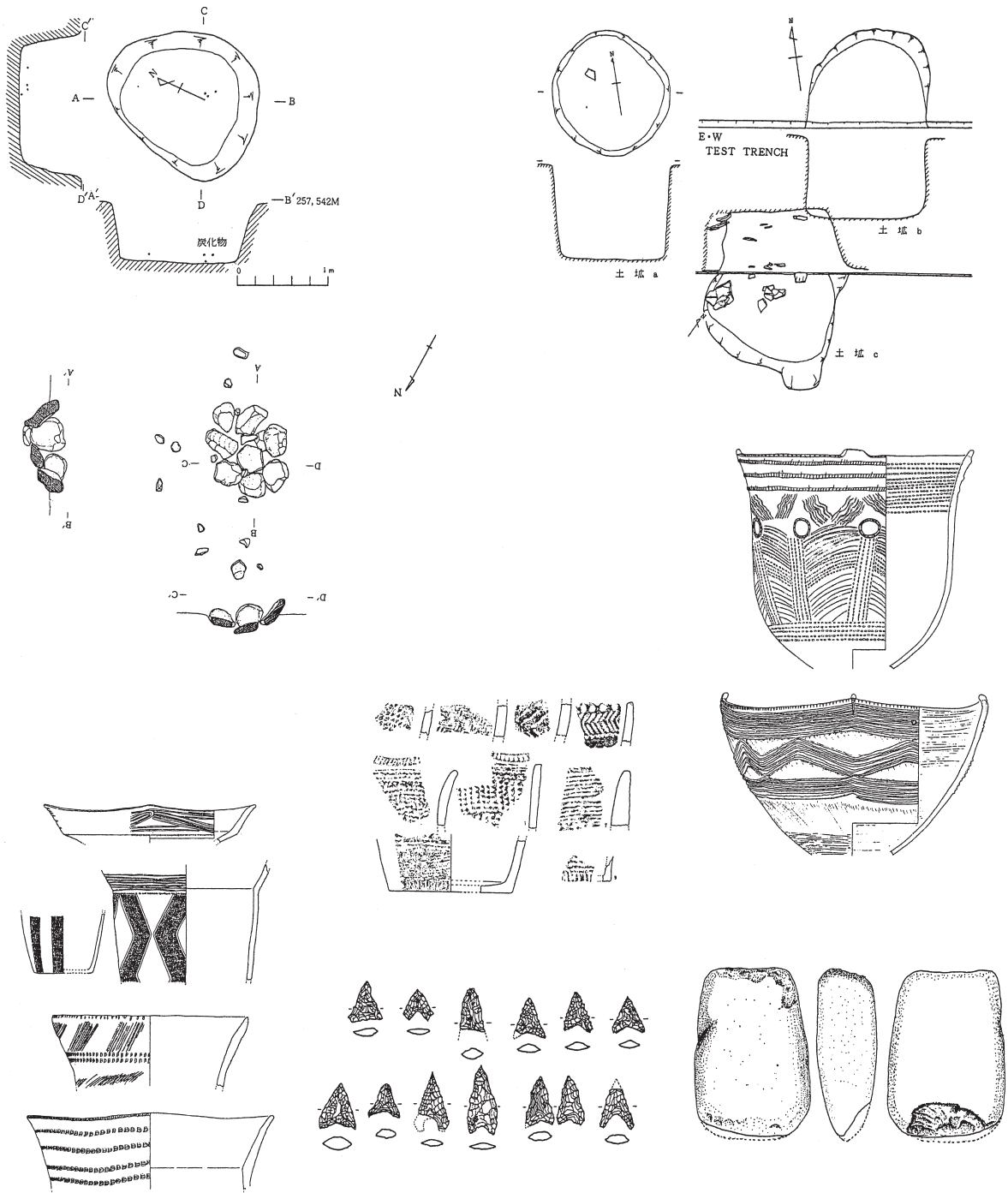
資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

参考文献

鹿児島県教育委員会1975「花ノ木遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財調査報告書』（1）

（青崎和憲）



第3図 縄文時代早期の遺構・遺物